

鳥取に眠る天空の要塞 若松鉱山がふたたび動きだす

シンポジウム - symposium -



2022年11月に神戸で開催された「廃墟景観シンポジウム」。200名を超える産業遺産・廃墟ファンが来場。「廃墟景観」の魅力と今後の保存・活用について、地元・ファン・研究者など、さまざまな専門的立場から意見が交わされました。そしてVol.2のテーマは「鉱山」。「若松鉱山」が山中に残る、鳥取県の日南町に全国から鉱山関係者が集結し意見を交わします。

若松鉱山見学ツアー - tour -

通常非公開となっている鉱山遺構群をガイド付きでめぐる特別見学会を開催。操業時のままの機械が残る選鉱場や、ベルトコンベヤや鉱務所などを探検します。



選鉱場



ベルトコンベヤ



鉱務所

若松鉱山の過去・現在・未来 シンポジウム 廃墟景観 Vol.2



チケットの購入はWEBサイトから
<https://wakamatsu-mine.com/haikyo/>
シンポジウム+鉱山ミニツアー 2,000円
シンポジウムのみ 1,000円
オンライン視聴 500円

2023年
10月22日

若松鉦山の概要

若松鉦山は、わずか30年前まで採掘が行われていた日本有数のクロム鉦山。産出されたクロムは耐火煉瓦の原料となり、この地域一帯で日本のクロム需要のほとんどを賄っていた時代もありました。

1995年の閉山となりましたが、今も採掘、選鉦、破碎が行われていた当時の様子がそのまま残る日本では数少ない鉦山跡で平成21年(2009年)に、経済産業省「近代化遺産群 続33」に選定されています。



シンポジウム プログラム

オープニングトーク



ワンダーJAPON 編集長

関口 勇 [Isamu Sekiguchi]



2005年に『廃墟・産業遺産・工場・珍スポット』などを紹介する『ワンダーJAPON』(三オブックス)を創刊し、2012年の20号まで編集長を務める。『廃墟跡の記録』、『産業遺産の記録』、『池島全景』、『バイコネール宇宙基地の廃墟』なども担当。2020年に『ワンダーJAPON』(スタンダード)を創刊(復刊)し現在7号まで刊行中。



廃墟探検家

栗原 亨 [Kurihara Toru]



30年以上にわたり約1500箇所の廃墟を巡る。近年はテクニカルダイバーの資格を取得し、海中の廃墟である沈船を30隻以上探索。著書に『廃墟の歩き方』シリーズ、『樹海の歩き方』、『新・廃墟の歩き方』、『廃墟紀行』、『ウソかマコトか?恐怖の樹海都市伝説』、共著に『日本の廃墟』、『ニッポン地下観光ガイド』、『実話怪談 樹海村』、『実話怪談 牛首村』がある。

第一部「若松鉦山が持つ廃墟景観的価値」



TEAM酷道 主宰

よごれん [YOGOREN]



工業製品メーカーに勤務する傍ら、25年前から酷道や廃墟の愛好家として全国を巡っている。CBCテレビ『道との遭遇』に出演するほか『文春オンライン』などに連載中。著書に『酷道大百科』、『封印された日本の秘境』などがある。



産業遺産写真家

前畑 温子 [Atsuko Maehata]



写真を通して産業遺産の魅力を伝えるべく、全国を旅している。2014年にはCanonギャラリーで写真展を開催。産業遺産ツアーではガイドも務める。『新日本風土記』『ラジオ深夜便』など、メディアにも多数出演。著書に『女性の産業遺産探検』、『ぐるっと探検産業遺産』がある。
※同時開催の『鉦山写真展』にも出展。

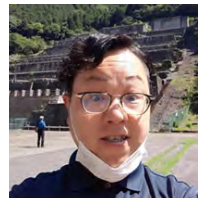


産業遺産学会 理事長

小西 伸彦 [Nobuhiko Konishi]



岡山県総社市生まれ。香川大経済学部卒。専門は産業考古学と鉄道史学。現在は就実大学人文科学部総合歴史学科特任教授、産業遺産情報センター主任研究員、鉄道記念物評価選定委員、倉敷市文化財保護審議会委員、産業遺産学会理事長。



多里の鉦山を語り継ぐ会 事務局

古川 則仁 [Norihito Furukawa]

「働いたら負けかな」と思っている人より先に、働いたら負けと思ってた元ニート。35歳で負けて故郷の役場に就職。そこで出会った実質会員1人の若松鉦山保存会「多里の鉦山を語り継ぐ会」の会長から、鉦山のことを色々相談されているうちに、いつしか2人目の会員に。縁あって今は多里の空き家を譲り受けて住んでいる。

第二部「鉦山跡の活用は過去、現在、未来を繋ぐのか」



一般社団法人清水沢プロジェクト 代表理事

佐藤 真奈美 [Manami Sato]



大分県別府市出身。就職を機に北海道へ。2008年からNPOなどで炭鉱遺産を活用したまちづくりに携わる。2016年、夕張市で一般社団法人設立。地域固有の歴史や文化を糧に、現在と未来の市民、それに関わる人々が誇りを持てる地域を目指す。2021年より北海道新聞コラム「朝の食卓」を執筆。2つの町内会の顧問でもある。



持倉鉦山遺構を護る会 会長

堀口 一彦 [Kazuhiko Horiguchi]



大学では水産学を学び、海水利用を専門とするエンジニアリング会社に就職。財団法人海洋生物環境研究所などに出身。青年海外協力隊でベネズエラ赴任を経て会津に移住し、山部地区でグリーン・ツーリズム推進に携わる。前職の阿賀町地域おこし協力隊での活動の一環で持倉鉦山のイベントを企画するようになってから、どんどん産業遺産や廃墟にハマっていくことに。※同時開催の『鉦山写真展』にも出展。



土橋鉦山株式会社 代表取締役

武部 将治 [Masaharu Takebe]



岡山県出身。東京で会社員をしながら廃墟写真の同人誌を制作。コミックマーケットなどで頒布していたが、実家の鉦山を継ぐため帰郷。2013年より土橋鉦山株式会社代表取締役就任。毎日、地下坑道に入り現場の指揮にあたりつつ同人活動も継続中。現在は昭和の風景を集めた写真集『昭和街道』シリーズを刊行中。



元池島地域おこし協力隊

小島 健一 [Kenichi Kojima]



2000年代初頭のSNS黎明期から、SNSを利用して大人同士で工場や研究施設、工事現場などを見学するいわゆる「大人の社会科見学」を実施。社会科見学や地下施設などの本を数冊出版後、その影響力を地域おこしに役立たせたいかと思いつき、2011年から3年間、炭鉱の島「池島」で地域おこし協力隊として活動。

【同時開催】鉦山写真展 (Saho、前畑 温子)



都市探検家

Saho

[Saho]



廃墟や近代建築、一風変わった風景を撮影している。2014年、幼少期に訪れた奈良ドリームランドが廃墟化していることを知り廃墟探索を始める。以来、廃墟の魅力に取り憑かれ国内外問わず、興味を引かれる場所にはどこへでも足を運びその記録をSNSで発信している。

